

光明禅寺

第521号

令和八年二月

現在に生きる

仏の教え

人間はいろいろなことをする能力をもっている。心理学者は、人間が能力の十%しか使っていないという。しかし、十%以上の人もいる。そのような人は、自分に何ができるかを探し求めて、限界を押し上げるのだ。

自分の心の中で、正しいと信じている事をすればいい。どちらにしても、非難を逃れることはできないんだ。

みなには悪くないのは私がよく知っているよ。だから泣かないで。

(仏さまの言葉本)

電話 221 4127 (2回線)
5111 090 7981 9123
FAX 241 3519

(県・市文化財指定安置所)

〒910-0002 指宿市十町二七六八 南迫田

二月の行事

一 南運・星祭やく払い法要

節分三日 午前10時・昼二時・夜7時30分
立春四日 午前10時

一 暁天竺禅会

初二日曜(八日) 朝六時
初三日曜(十五日)

一 釋迦如来涅槃会法要

十五日 二時

一 地藏尊・水子供養

二十四日 二時

おわび

新聞の千ラシの中に2日節分3日立春
となつていました。が、まちがいで、ただし
くは三日節分・四日立春となつてい
ます。まちがいのないようによろしく
お願い申し上げます。

節分ってなみに

春・夏・秋・冬の四季の変わり目
を節分というのです。今では二月初
めごろの冬から春への変わりめの立
春の前の日を節分というようになり
ました。冬から春へと新しい季節節を
迎えるにあつては、悪い鬼や悪い病
気が家の中に入らないように豆をま
いて、悪い鬼や魔物を追い払う行
事を昔から行ってきたのです。

今でも「節分」には、「鬼は外 福は内」

と、大声を出して豆をまくのは、そのため
なのです。人間のところの中には、よいこ
とを考えたりに行ったりするところも
あります。が、その反対に、なまけたいと
いうところ、少しでも楽をしたいという
ところ、人をうらやんだり、わだんだり
するところもあるのです。

このような悪いところや、なまけところ
を自分のところの中から追い払って幸
せをめざすために、節分では豆をまく
のです。自分のところの中の悪い鬼を
追い出して、清らかなところを持ちつ
づけるようにしましょう。「鬼は外
福は内」と大きな声でいってまいら
う。鬼は、障子紙を古でなめて、穴
をあけて家の中をのぞいたのです。
その鬼の目をめかけて、「鬼は外 鬼の
めん玉ぶつつぶせ」といり豆をなげました。

いり豆は、芽がでないからです。めざしは、目をつきさして見えないうようにしたからです。人間は自分の生活を鬼から見られるのがこわかったのですね。

・節分には、どうして豆をまくの

節分というのは、昔の、よみでは冬と春のさかい目のことで、寒い冬が終わって暖かい春がやってくる前の夜のことなのです。昔は、この節分の夜には鬼がやってくると信じられていたのです。だれでも寒い冬より、暖かい春のほうが好きでしょう。暖かく、草花も芽を出し、サクラも咲く春を、昔の人も今の人も待っていますね。この待ちに待った春をお迎えしての、前の夜に、あのおそろしい鬼をもった赤鬼や青鬼が家にやってきたら、みんなはどう

しますか。いやでしょう。追いはらってしまいたい気持ちになるでしょう。

昔の人は鬼たちは「いり豆」は芽がでないので、いちばんきらいなものと思っていたので、鬼のくるといわれている節分の夜に「いり豆」をなげながら、「福は内 鬼は外」とさけんで、鬼が家の中に入らないように祈ったのです。

場所によっては、福は内 福は内しかさけない地方もあります。これは「鬼は外」とさけぶと、鬼がおこって戻ってきてしまうのをさけるための工夫です。農家の人にとって豆は大切なものです。ですから、その豆に幸福を招く願いをこめたのです。

鬼ってなあに、ほんとうにいるの？ 鬼はいまいますね。みんなのまごころの中

にもいるのです。「あの子をいじめてやれ」
「いじめまかして、ウソをついておころ」
他人のものだけと、だまって取ってもゆか
らないうらうしなどと考へ、「いじめたり」
「ごまかしたり」「盗んだり」してゐるとき
は、その人はよい人間ではなく鬼のよう
な人、鬼のこころを持つた人ですから、
その人は鬼です。人間は弱いのですぐ、
「なまけ」こころ、おこるこころ、おろかなこ
ろに負けやすいのです。なまけこころが
出てきて勉強を途中でやめてしまった
りしたときは、こころの鬼が勝つてしま
つたのですから、その人は鬼に変わつて
しまったといえますね。どんなときでも
なまけない、おこらない、おろかなこころ
を起こさないで、世のため人のためになる
ことに努める人は鬼ではなく人間です。
なまけこころやおこるこころがいっぱいの

人は、鬼のようになつて顔になります
から、気をつけましょうね。
そういうこころを、けつしておこさない
と折言うため、花嫁さんは、鬼の角
をかくす、つかう、つかう、つかうの頭
にかぶるんですよ。こころに鬼がついて
くとは、必ず顔やことはになつて出
てくるものですから、気をつけましょ
うね。

ひとの邪曲よこしまをみるなかれ、ひとのこれ
をなし、かれをなさざるを見るなかれ
ただおのれの何をなし、何をなさざ
りしを想ひうべし
(法句經)
朋友ほうゆうに三つの要法あり。一つに過失あ
るを見てはこれを諫め曉かし、二つに
は好事ある時は深く随喜し、三つに
は苦厄くやくにおいても捨てざるなり(因果經)